

「私を批判する方々はちゃんと説明を聞いてますか？
LGBT 問題もヘイトスピーチも放置すればマスコミや活動家
たちによって社会は分断される！」

令和5年6月22日

●チーム西田からの質問

西田議員、いつもご苦労様です。西田さんが多岐に渡ってご活躍されていることはよくよく理解しておりますが、最近の週刊西田の配信につきまして、批判コメントが多く寄せられています。どうして西田さんにばかり批判が集中するのでしょうか？また、連動するように最近はチャンネル登録者数もかなり減っていますよね。その理由は何でしょうか？よろしくお願ひします。

●西田昌司の答え

私も批判のコメントをよく見ていますが、私の説明を聞かずに一方的に決めつけている人が多いように感じます。これは、かつてのヘイトスピーチ解消法の時も同様でした。

ヘイトスピーチ解消法の施行前は、「朝鮮人は出て行け」といった具合に本邦外出身者を口汚く罵る言葉を公然と吐く人間がいましたし、そういった行為は日本人が見ていても嫌な気分させられます。

そういった行為を止めさせなければなりません、法律で規制をするのではなく、日本人として恥ずかしい行為は止めましょうという理念法の形としました。よって、ヘイトスピーチ解消法は禁止事項を定めていませんし、表現の自由が制限されることはありませんが、明らかにヘイトスピーチを目的とした集会やデモに対しては、施設を貸したり公道を使わせることを制限す

る法的根拠として地方自治体が上手く活用することもできます。

日本人の言論の自由を損なうことのないよう、法案から毒を抜くことに私は苦心しました。それでもかなりの批判を浴びることになりましたが、ヘイトスピーチ解消法の施行によってヘイトスピーチが随分と少なくなりました。今回の LGBT 法案も、ヘイトスピーチ解消法と同じく過激な性教育を抑制する効果がありますし、ですから私も最終的には賛成に回りました。

かつては、私も LGBT 法案に反対でしたが、今回成立した法案は、(LGBT の当事者以外の) 圧倒的多数の日本人に制限を課すような内容ではありませんし、禁止事項も定めていません。ヘイトスピーチ解消法と同じく理念法でありますし、その点を私は説明していますが、通じない人には通じないのです。

ジェンダーに関する法律がこれまでに整備されておらず、ゆえに過激な性教育を抑止できていません。埼玉県では、「性の多様性を尊重した教育の推進」が行われており、小学校 5・6 年生の児童に対して「性別に関係なく、いろんなものを選んだり、いろんなことに挑戦してもいいんだよ」といった教育がなされています。

LGBT 活動家は、そういった教育を行政に押し付けてきますし、行政側はジェンダーの知識がないと押し切られてしまいます。そのような現状を踏まえて、国がしっかりとした指針を作って過激な性教育に歯止めをかけるのが今回の LGBT 法案の目的の一つです。

日本共産党や立憲民主党は、マイノリティーの人権を守ることを声高に叫びますし、ですから (禁止事項をも含んだ) 毒のある LGBT 法案を推進する立場ですが、今回可決成立した法案はそういった毒が抜かれていますから彼らは面白くありませんし、ですから今回の法案には反対をしています。

左翼側が今回の法案に反対なのは理解できますが、保守側も反対をしてい

ます。保守側は、今回の法案が通ることで社会が分断されると叫んで、批判の矛先が私にも向かってきますが、右と左が両極端で罵り合う今の状況こそが社会の分断を生んでしまいます。

圧倒的多数の日本人はジェンダーレストイレを求めていますし、女風呂に（心は女性の）男性が入ってくるのを絶対に快く思いません。そういった行き過ぎたジェンダーレスの社会にならないよう、基準を作らなければなりませんし、だから今回の LGBT 法案が必要なのです。かく言う私を、（行き過ぎたジェンダーレス社会を求める）左翼系の人々が批判するのはわかりますが、保守系の人々も一緒になって批判するのは理解できません。

日本は、LGBT の方々に対して非常に寛容ですし、そもそも差別されたり糾弾されるような事実はないので、LGBT をどんどんと認めて彼・彼女らの権利を拡大させるような必要は全くありません。LGBT の方々を被害者に仕立て上げて利権を貪ろうとする団体もありますが、そういった運動は止めさせなければなりません。

社会を、支配する側・支配される側の対立関係と捉えて、支配する側を倒せば良い社会が訪れるといった考えを左翼の人は持っていますし、LGBT 問題もその延長線上で捉えていますから、性的マイノリティーを救おうという発想になるのですが、そうやって対立を煽ることで社会の秩序を崩壊させていることに彼らは気付きません。

社会を崩壊させて革命を起こし、男も女もない、金持ちも貧乏人もない、支配も被支配もない、「平等」な社会を築かんと彼らは活動しますが、そのようなことをしても単に社会の無秩序を招いて誰も幸せにならずに、皆が傷つけ合うような殺伐とした社会が到来するだけです。そんな彼らに対抗するための今回の LGBT 法案なのです。

私に批判を寄せる（自称）保守の方々には、くれぐれも誤解のないようよろしくお願いいたします。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>